

## (第4号議案) 平成29年度事業計画(案)

### (基本方針)

平成29年度(平成29年10月から平成30年9月)の我が国経済を展望してみますと、金融・財政政策に依存したアベノミクスの限界の顕在化などから、長期の景気拡大局面も息切れ感が広がると想定されます。

戦後最長の拡大期間も現実味を帯びてきた景気ですが、消費者にとっては現実味を感じられないと言う声を多く聞きます。バブル期に相当する深刻な人手不足は生産年齢人口の減少に伴い長期化すると見られますが、十分な賃金上昇を伴っておらず、消費意欲の向上を背景とした景気回復とはなっていないのが実情です。大企業を中心に高水準となっている内部留保を適切に分配し、中小企業や地方経済に循環させる取り組みが期待されます。また、低成長を打ち破る主力エンジンである規制改革の取り組みは一向に進まず、プロセスの透明性を確保した上での議論、革新的な取り組みの早期実現による経済活性化はまったなしの状況といえます。

一方、政治・社会情勢に目を向けますと、海外では自国の利益を最優先する「自国中心主義」が世界を牽引する大国にも広がりを見せており、国際協調体制の変調、異なる考えを受け入れる寛容さが失われつつあります。また、北朝鮮の暴挙も沈静化は見込めず、安全保障をはじめ我が国を取り巻く環境は近年になく厳しい状況にあります。国内においても、少子高齢化、財政赤字など長年の課題が山積しており、将来を見据えた抜本的な取り組みが期待されます。

さて、こうした状況の下、山梨経済同友会の平成29年度の活動を考えてみます。

山梨県では、新たな交通インフラ整備への取り組みが進んでいます。平成39年度に開業を見込む中央リニア新幹線は、工事区間の拡大が見込まれるほか、駅周辺の機能等についての具体的な検討や開業効果の議論などを通じて開業後の本県の姿がより明確となってきます。また、中部横断自動車道も、平成31年度の静岡山梨間の開通に向けて工事が進むと見られます。このほか、総合球技場の建設に向けての踏み込んだ検討も始まると想定されます。

山梨県は、これまで、JR中央線の開通、中央自動車道の開通と、交通インフラの整備を契機に大きく発展してきましたが、中央リニア新幹線の開業も同様な効果が期待されます。また、主力産業である観光関連産業では、平成32年の東京オリンピック・パラリンピックの決定を受け、山梨を訪れる訪日外国人が加速的に増加すると見込まれます。このように、山梨は、現在JR中央線の開通時、中央自動車道の開通時に次ぐ「第三の飛躍期」を迎えようとしています。この千載一遇のチャンスを確実に実現化

していかなければなりません。

一方、人口減少・県外への人口流出、中山間地の集落機能の低下、空家の増加、事業所の減少・地価の続落、荒廃農地の増加など、多くの懸案について有効な処方箋が施されていない状況にあります。3年目を迎えた総合戦略の取り組みなど、さまざまな行政施策が実施されていますが、地域に住む住民、地域で活動する企業・団体が、自らが主体であるという自覚を持ち、行動する、努力するということが必要だと思われま

す。山梨経済同友会は、地域に関わる企業・団体を率いる経営者の組織であり、地域の発展に関して重要な役割を期待されています。このため、地域の課題を的確に把握し、政策提言を通じて存在感を高め、期待に応えていかなければなりません。地域のリーダーとして、地域の課題に積極的に関わり、活性化に取り組んでいく姿勢が求められています。

同友会では、昨年度、山梨リニューアル委員会、山梨創生委員会、組織運営委員会、新DCTP会議の体制に組織を再編し、地域の課題解決を目指し、多様な活動を行なってまいりました。今年度はこうした活動をさらに高めてまいります。

具体的な取り組みとして、山梨リニューアル委員会では、「リニア中央新幹線」「富士山世界遺産登録」「中部横断自動車道」を活用した経済活性化を標榜し、情報収集及び提案活動を展開するほか、山梨創生委員会においては、大学・高校との連携事業の更なる進化、ホームページの更新を通じた取り組み強化を図ります。また、組織運営委員会では、若手経営者の交流・勉強機会の提供、行政・経済団体との連携事業及び組織運営に関する事業に積極的に取り組んでいくなど、各組織とも活動の更なる充実を図ってまいります。

#### <各委員会・部会の活動計画>

##### ◆山梨リニューアル委員会

(田淵幸弘委員長、金澤 悟幹事)(相談役 入倉 要)

「リニア中央新幹線」「富士山世界遺産登録」「中部横断自動車道」を活用した経済活性化を標榜し、引き続き情報収集及び提案活動を展開する。

##### ○リニア部会(志村浩男部会長、小澤健太郎副部会長)

リニア中央新幹線の開業効果の研究を継続し、課題のひとつである二次交通に対するインフラ投資について特に重点的に取り組んでいく。

##### ○富士山部会(原田由起彦部会長、渡邊良孝副部会長・三浦秀行副部会長)

富士山世界遺産効果について、東京オリンピック・パラリンピックの影響も考慮しながら、整理、提言を行なっていく。

##### ○中部横断道部会(依田光人部会長、飯嶋禎典副部会長)

中部横断道静岡山梨間の開通を見据え、静岡経済同友会との連携、交流

も視野に活動に取り組むとともに、ストック効果を整理、検討していく。

◆山梨創生委員会

(清水一彦委員長、伊藤祐寛幹事)(相談役 入倉 要)

大学・高校との連携事業の更なる進化を目指すほか、ホームページの更新を通じた取り組み強化を図る。

○次世代育英部会(饗場紀仁部会長、望月幸徳副部会長)

年2～3回程度を目標に、山梨英和高校や公立高校への社会人派遣講師事業を実施する。

○産学連携部会(井上久仁部会長、藤田義治副部会長)

山梨県立大学での産学連携講座「山梨創生学」について実効性を高め継続実施するほか、同大、山梨生涯学習センターの教育事業である「山梨学講座」に協力を行なう。

○山梨ネットワーク部会(齊藤基樹部会長)

ホームページのリニューアルを実施し、利便性の向上を図るほか、山梨ブランドの発信力を強化する。

◆組織運営委員会

(上原伊三男委員長)(相談役 望月英雄・入倉要・長澤重俊)

若手経営者の交流・勉強機会の提供、行政・経済団体との連携事業及び組織運営に関する事業に積極的に取り組んでいく。

○青雲の志部会(清水栄一部会長)

山梨県に住む若者、主婦、社会人などを念頭に公開セミナーなどを開催し、起業してグローバルに活躍できる人材が育つ環境整備に取り組む。

○運営部会(齊藤勇介部会長、伴野公亮副部会長・平賀新也副部会長)

「山梨の未来創生の会」など首長・行政との意見交換の実施、婚活等の経済団体連携事業や会員親睦・交流の場づくりを積極的に進めていく。

◆新 DCTP 会議

(竹内淳座長、安藤耕治幹事長)(相談役 入倉 要)

「やまなし女性にプラス!プロジェクト」「ICTプロジェクト」の活動について、有識者との意見交換も考慮し、提言に向けての整理を行っていく。

以上